

修学旅行コロナ対策

- | | |
|-------------|------------------|
| ×換気の悪い密閉空間 | ○こまめに手洗い・手指消毒、換気 |
| ×多くの人が密集 | ○ソーシャルディスタンス |
| ×近距離での会話や発声 | ○咳エチケット |

1. 感染防止対策

- **出発前の健康観察の徹底**
 - ・出発の2週間前より、本人だけでなく同居家族も含めて体温や健康状態のチェックをする。→健康状況確認書にて申告。
 - ・発熱やかぜ症状がある場合は医療機関に受診する。
 - ・発熱・体調不良者の参加は取りやめる。
- **事前調査による参加の是非の検討**
 - ・食物アレルギーや既往症等の事前調査に加えて、新型コロナによる重症化リスクの可能性を事前に把握し、主治医の見解を保護者に確認する。
- **定期的・計画的な手洗いや消毒**
 - ・引率者全員、アルコール手指消毒液を携帯
 - ・団として大きいボトルも準備
 - ・バス乗車時、施設入館時、食事前などに手洗いや手指消毒を実施
- **定期的な検温・健康観察を実施**
 - ・朝・夕（スケジュール表に「検温タイム」や「検温記録欄」を記載）
 - ・非接触型体温計による。
 - ・常時健康観察は行い、体調不良時には適宜休養をとり、発熱時には右記に連絡相談する。
- **食事、入浴、就寝の時間以外はマスクの着用を励行**
 - ・熱中症などの健康被害が発生する可能性が高いと判断したときには、「換気」や「人と人との距離を確保」、「対話の抑制」をした上で、マスクを外す。
- **手をふくタオルやハンカチなどの持参**
 - ・共用はしない。
 - ・最低1日1枚の使用とし、適宜交換する。
 - ・使用した物は密閉しておく。（ビニール袋を各自持参する。 ※【持参・準備物】参照）

相談先【仙台市宮城県相談窓口（コールセンター）】

TEL 022-211-3883 または 022-211-2882

2. 集合・解散場面の設定時の留意事項

- ・開放された広い場所
 - ・間隔の確保
 - ・短時間での注意指導、連絡
- 余裕を持たせた体制・方法

3. 輸送機関利用上の対策

- ・バスは学校ごとに乗車（さくら：大型45人乗り、裏磐梯：中型29人乗り）し、2席に1人で着座する。
- ・バス乗車時の手指消毒
- ・乗車時のマスクの着用、会話の抑制

- ・利用するバスに備わっている空気清浄機の常時稼働
- ・一般道では窓を開けて、換気しながら走行してもらう。高速道では休憩時に換気を行う。

4. 宿泊施設内での対策対応事項

○居室に関して

- ・定員5名の部屋に3～4人編成で宿泊する。
- ・夜間の水分はペットボトルで配給し、館内の売店や自販機は使用しない。
- ・館内を散策したり買い物に行ったりせず、フロア内のみですごす。

○入浴に関して

- ・入浴時の人数・スケジュール調整
→大浴場利用。一般客の利用はあるものの、同時時間帯に他校の利用はなし
- ・浴場での会話の抑制
- ・着替えや使用済みマスクは密閉する（密閉できる袋を各自持参するか、ビニール袋の口をしっかりしばる）。

5. 食事施設利用上の留意事項

- ・一人ずつのセットメニューでの食事
→宿では団貸し切りの広間で座敷の御前。間隔を空ける。
- ・ベニールランドでの昼食はお弁当。貸し切り席を用意する。
- ・うみの杜水族館での昼食はフードコート。班別行動になるが、引率者が付き添い消毒などを支援する。

6. その他

- ・コロナ対策についての児童への事前指導を実施し、徹底する。
- ・持参するおやつは人に配らない。
- ・不特定多数と接する機会を減らすため、自由行動、フィールドワークはしない。
→市内班別研修をなくす。（不特定多数との接触、地下鉄利用等の回避）
- ・行動記録をとれるようにする。→しおりに基づき団体行動。
- ・施設等での班別行動では、各班に指導者1名が帯同する。
- ・感染状況の変化により、スケジュールの変更や中止、引き返すなどの判断を行う。
- ・修学旅行終了後も本人を含め同居家族の健康観察を行う。（目安として2週間）

【持参・準備物】

児童：マスク・ハンカチ（1日1枚以上）、ティッシュ、マスクケース、衣類の密閉袋、使用済みマスクやティッシュの処理袋（密閉）

学校：引率者用携帯用アルコール手指消毒液、施設設置用ボトルのアルコール手指消毒液、非接触型体温計、対物消毒用アルコール、キッチンペーパー、汚物用袋